

愚図愚図散歩150 日日是好日133

2026.02.01



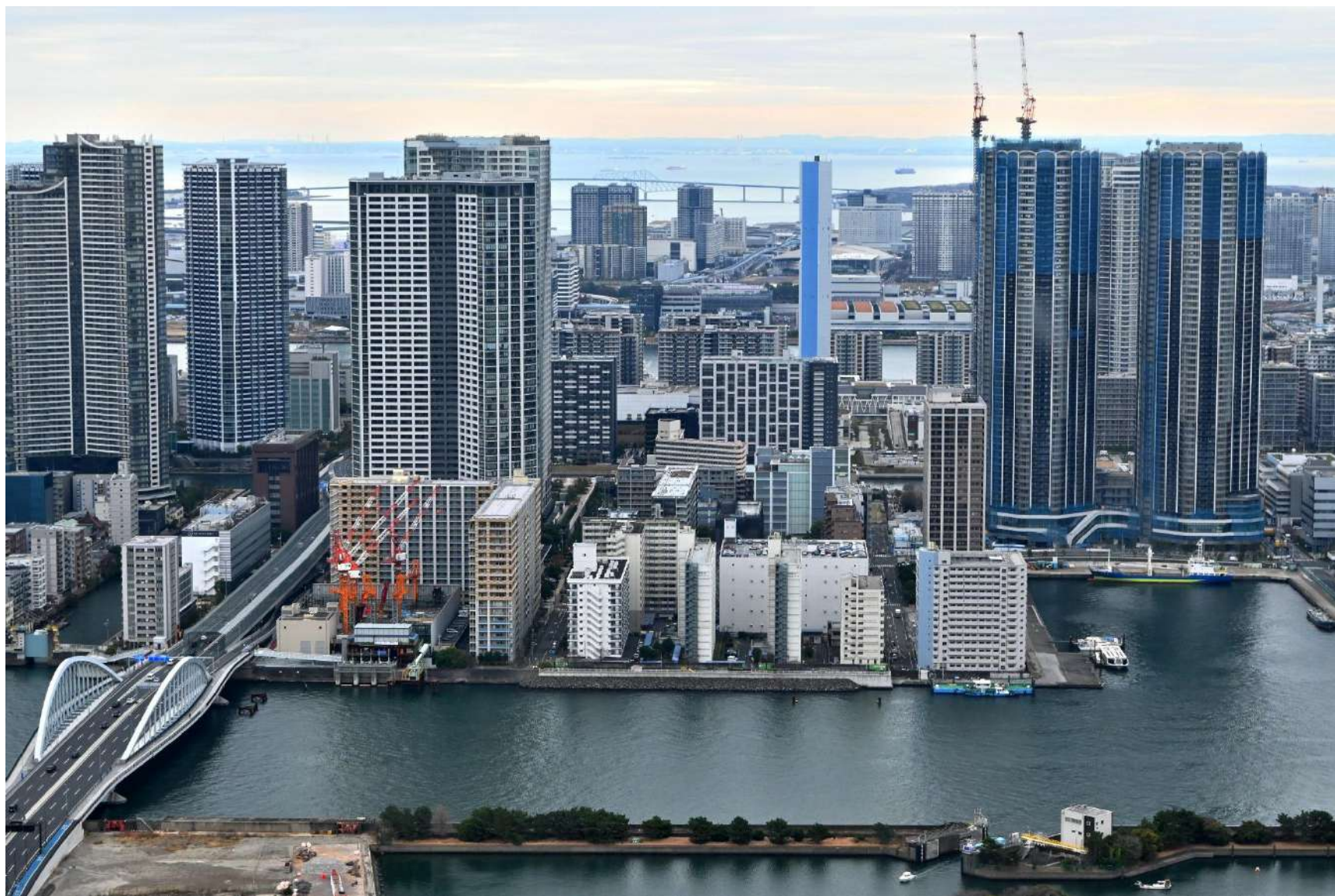
制作・撮影 浦野俊之



晴海ふ頭公園から東京湾を挟んで芝方向を見ると、日の出桟橋に停泊する客船の後ろに、全面ガラスのビルが見えます。海側から見た事がないので、何と言うビルか判らず、空を映す青一色の壁面に見惚れてしまいました。後で調べると「ブルーフロント芝浦」でした。
(港区芝浦1-1-1)



建築工事中の「ザ豊海タワーマリン&スカイ」(中央区豊海町41番(地番)地上53階



遠くレインボーブリッジ、その先に房総半島が霞んで見えます。豊海、勝どき周辺の高層ビル。



オリンピック選手村跡に建つ晴海フラッグ・タワー棟 デュオ 地上50階建て.



ダルマさんが並んでいます。気が付いたのですが、大きくて高価な達磨は、事前予約で、名前入りなのですね、この歳になってやっと気が付きました。



十条銀座の京都嵐山 アトリエ 衣舞 の店頭で、こんなまつげの長い達磨さんを初めて観ました。



両国公園に勝海舟幕末絵巻として海舟の功績が展示されていました。最も大きな功績は何といっても江戸無血開城で日本の歴史は大きく変わりました。銅像ではなく、椅子と日本刀が絵巻の前に置かれているのが成程と思えました。(墨田区両国4-25-3)



さほど広くない交差点ですが、気が付けばスクランブル交差点の白線ばかり目立つ有楽町駅前。



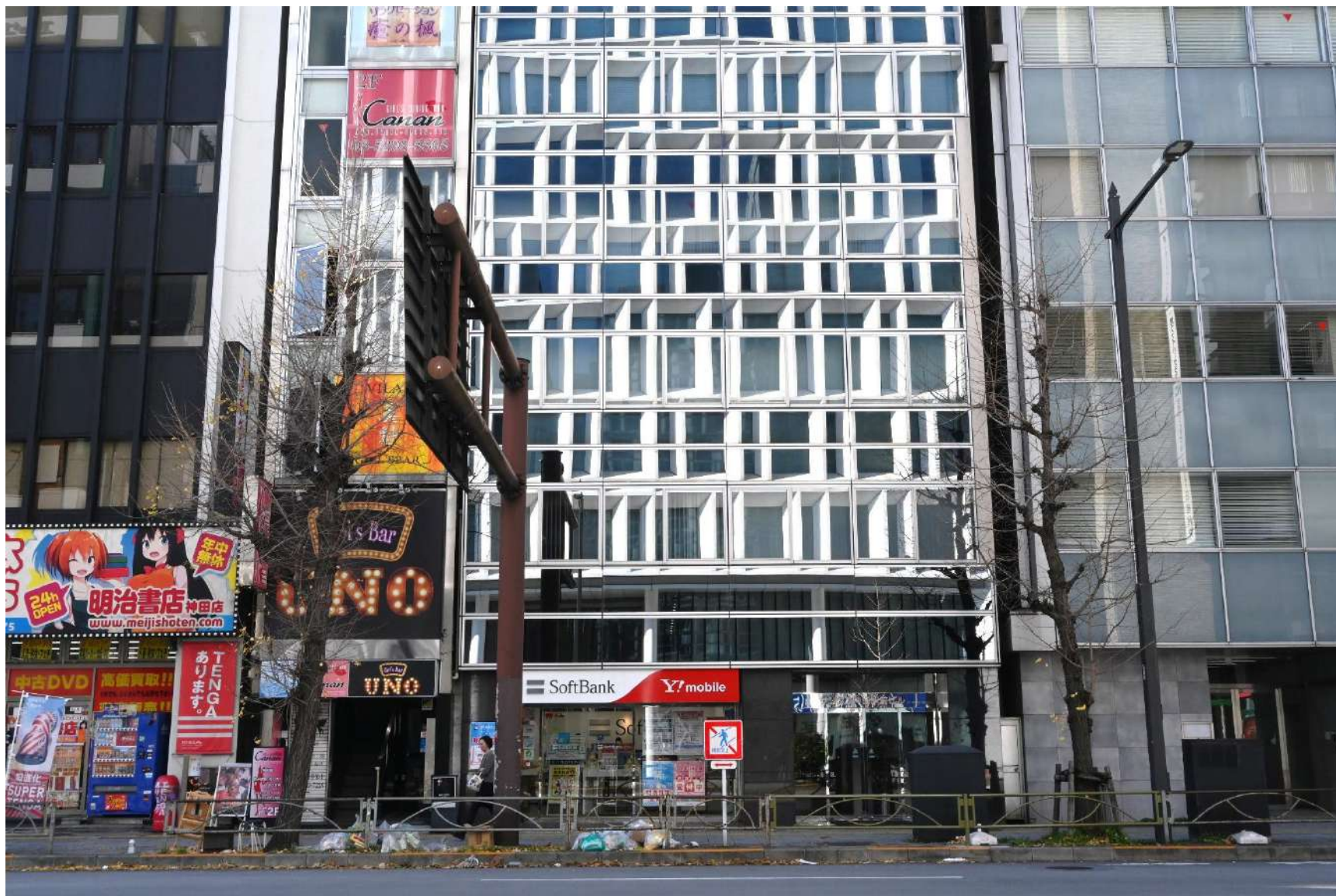
このビルは非常階段とは別に、非常滑り台が設置されているようです。いざと言う時老人、子供には助かる施設なのでしょう。後で調べましたら、特別養護老人ホーム新富の設備のようです。(中央区新富1-4-6)



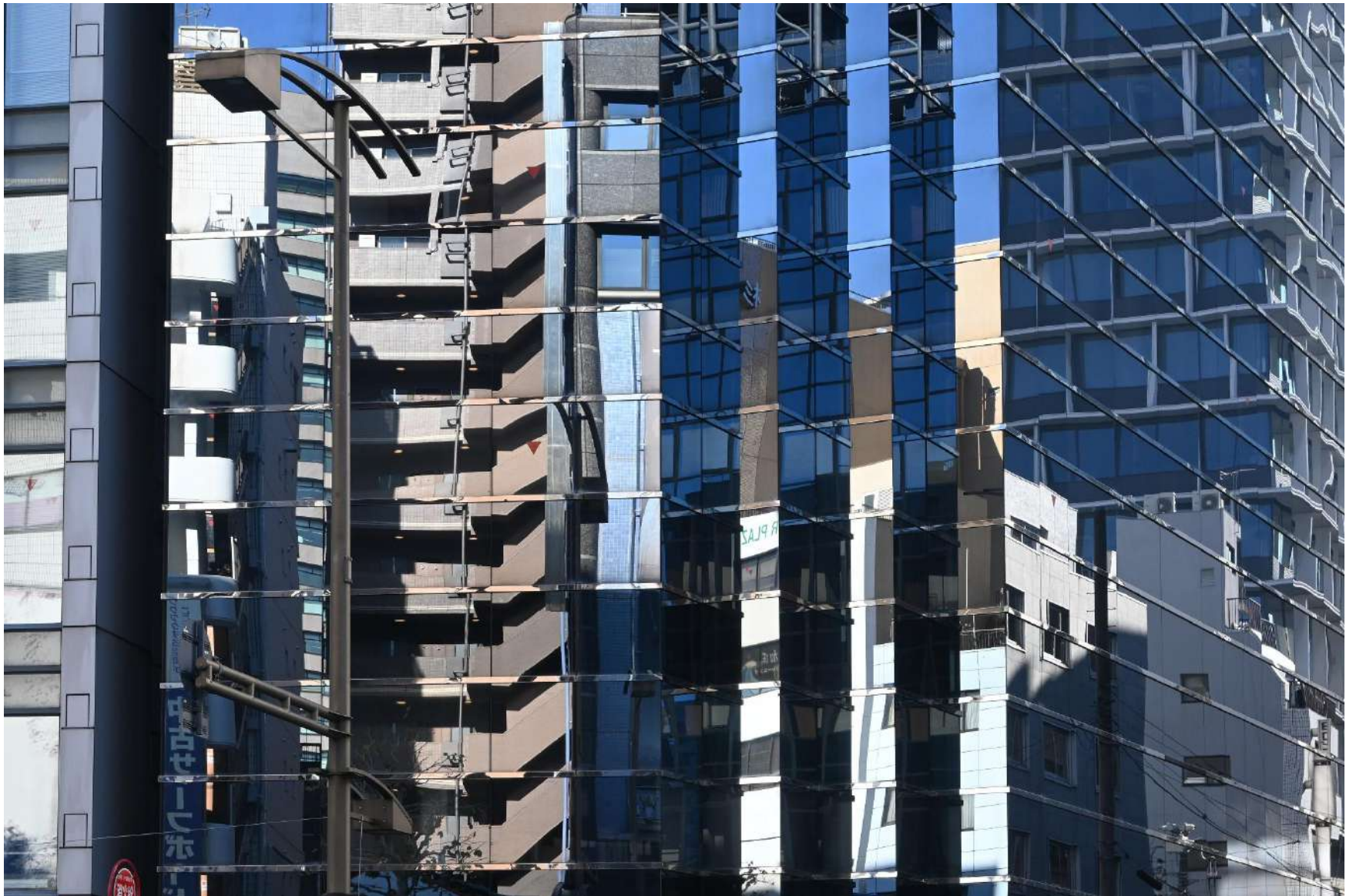
丸ノ内仲通に展示されたオブジェ、ウンベルト・マストロヤンニ(イタリア)「幸運の木」1978 子供が両親にまわりついてはしゃいでいる様な遊び心を表現したのかと思うような傑作です。あたりのビルが工事中で殺風景な雰囲気をはらげる力を持っているようです。



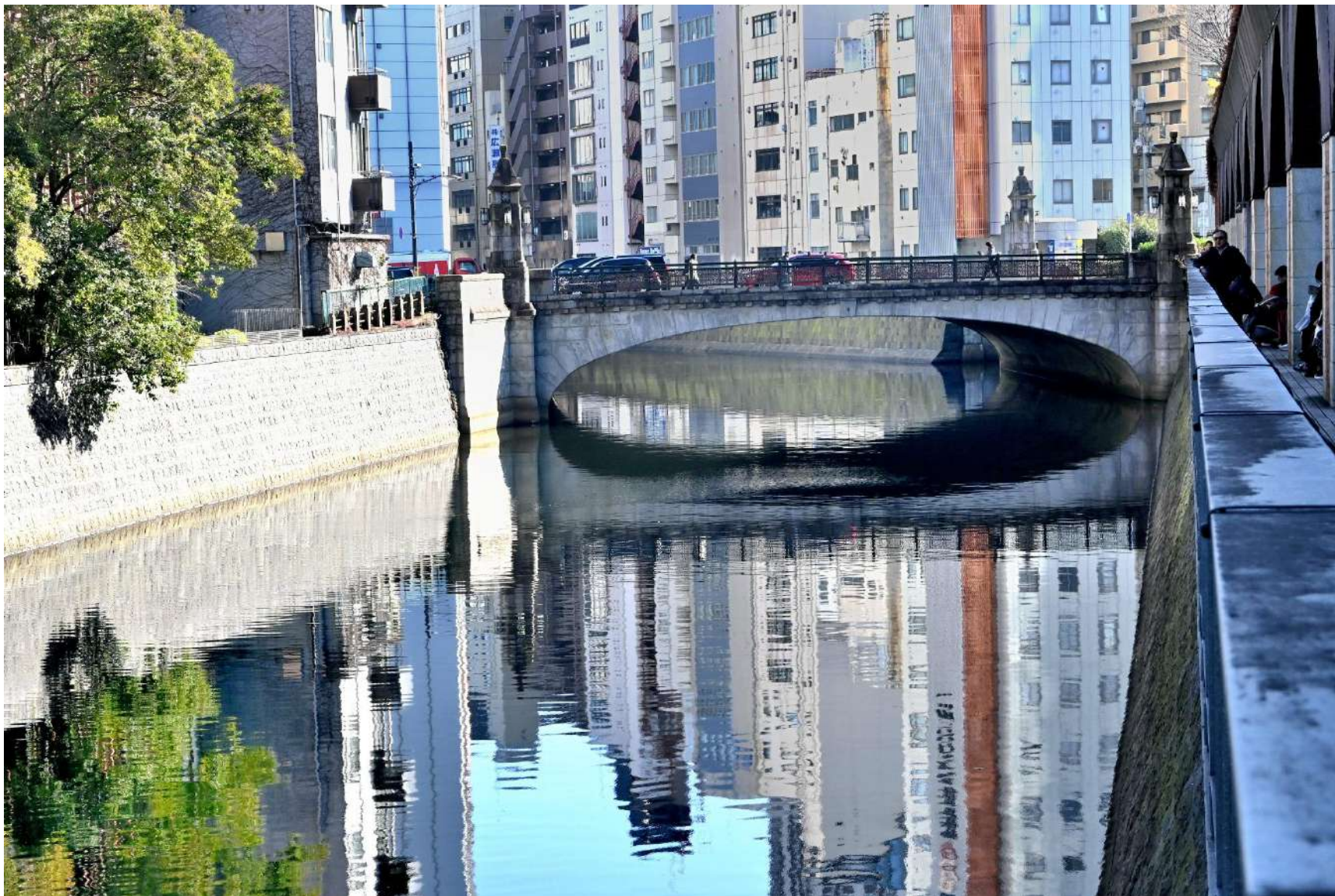
不思議な外装の建物に出会いました。まるで黒いテントのようですが、よしもと漫才劇場でした。(千代田区神田神保町1-23)



二つの顔を持つ白い棧のビル、実は鏡面ガラスに前面に建つビルが映っているのです。このビル自体は鏡面ガラスの平たいだけの建物でした。(千代田区神田鍛冶町3-3)



靖国通りの一角に目を見張る建物がありました。私が動けば風景も様々な建物が映り込んで変化する、私の子供の頃には無かった、多面鏡面壁面です。撮影しながら構図を変え、色彩の変化に心奪われながら、撮影を愉しみます。(千代田区神田小川町2-3)

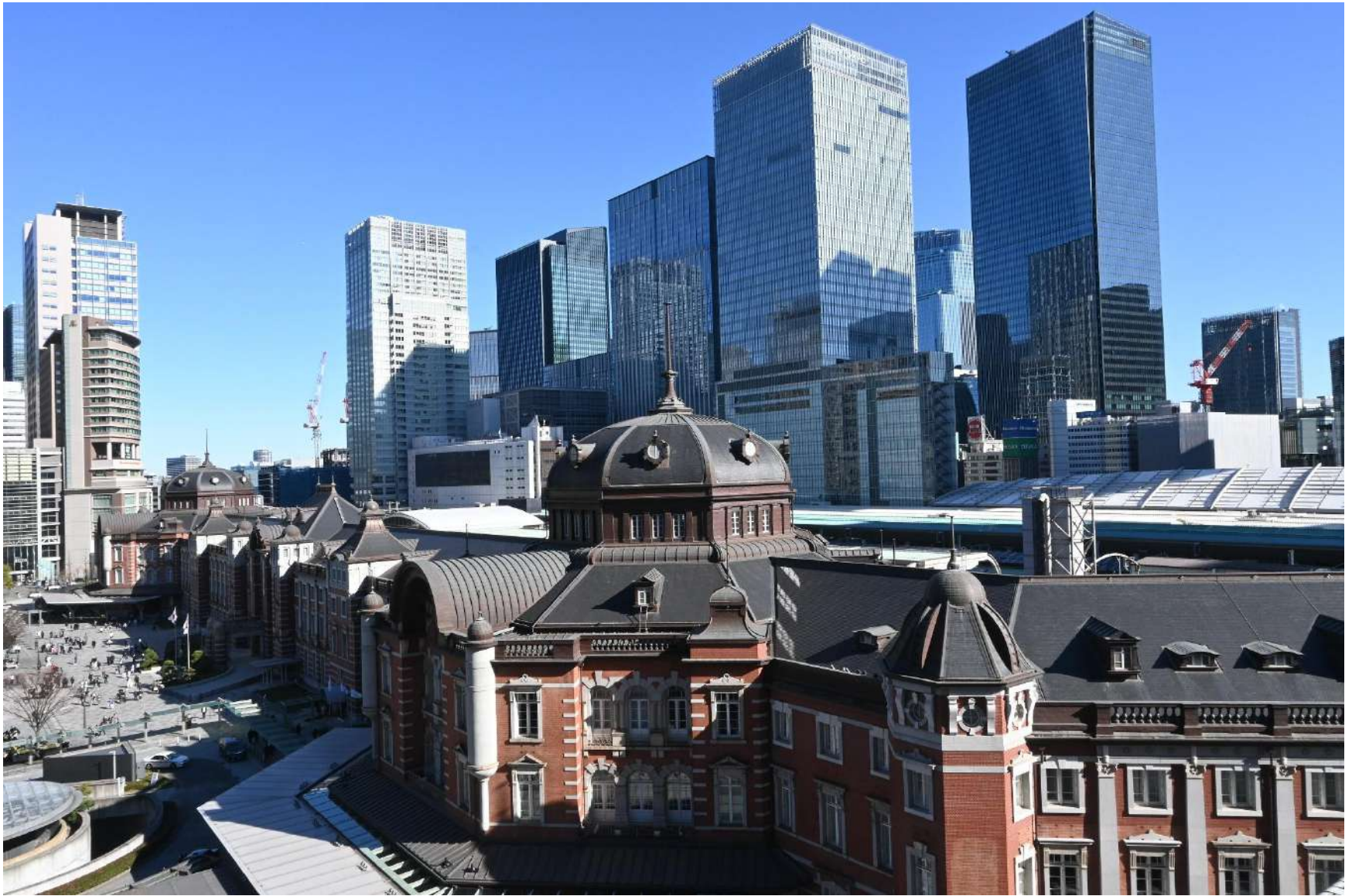


神田川に映る万世橋。





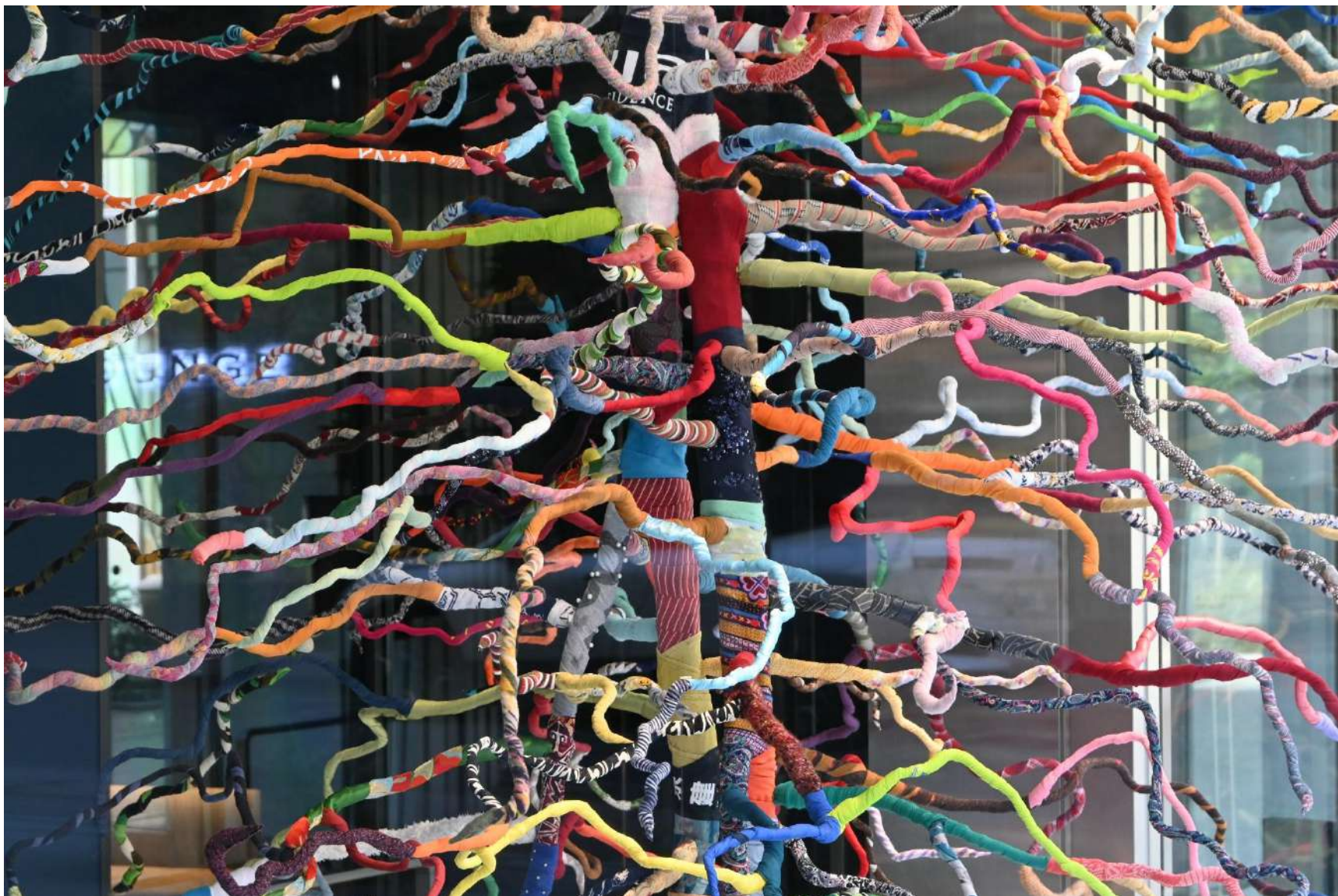
昨夜見た夢の名残の様な雪の跡。



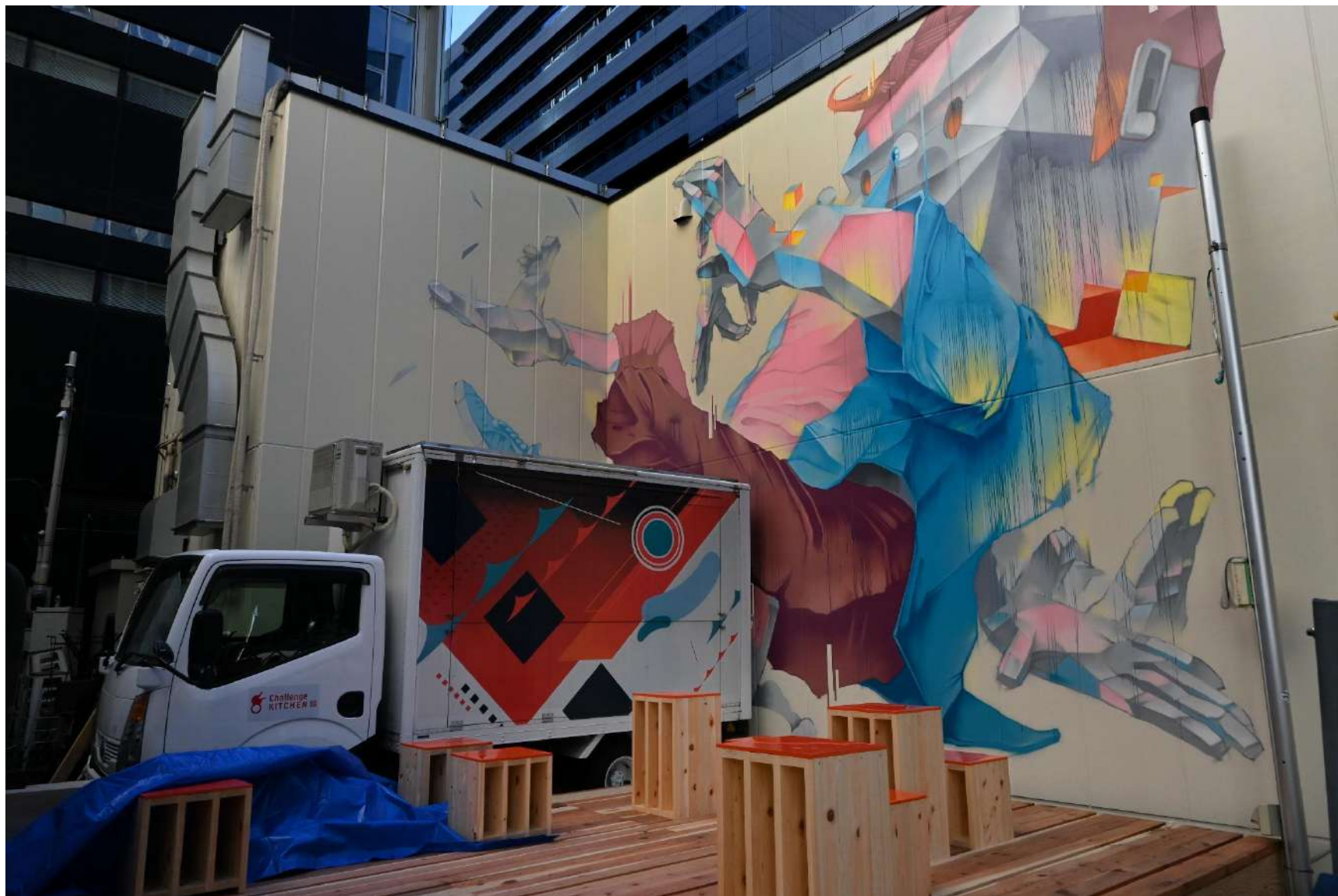
東京駅丸の内駅舎は私の若いときにもありましたが、バックの高層ビルは一つもありませんでした。駅舎は古いだけに親しみを感じますが、直線と鏡面を使ったビルは現代を代表する建築で素晴らしく、どちらが良いかと問われれば、どちらも素晴らしく、時代を反映している建造物だと言えます。100年後はどのような光景になるのでしょうか、今の私には想像することもできませんが…。



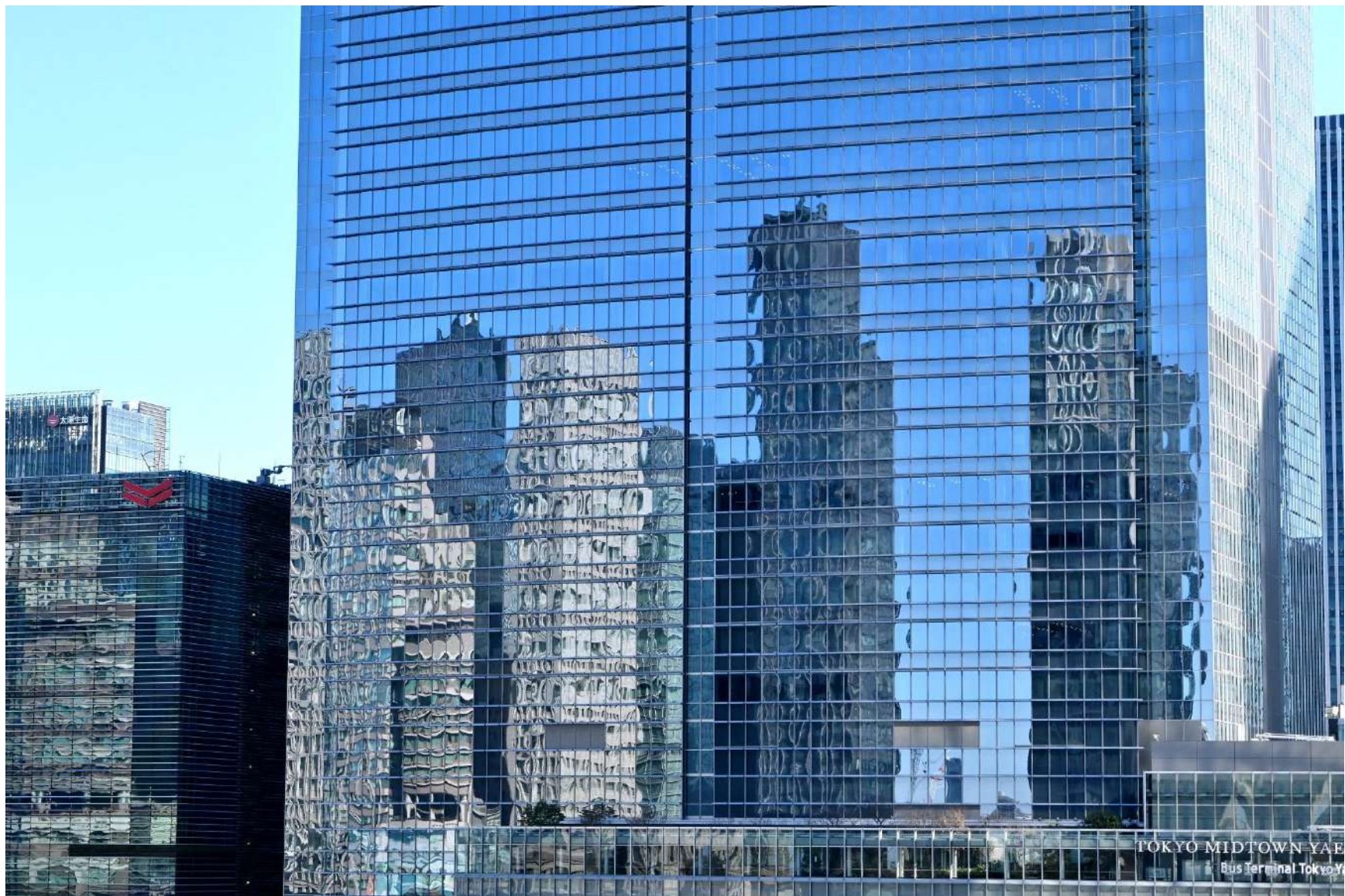
三菱一号館と背面のパークビル 新旧壮観な風景を演出しています。(千代田区丸の内2-6-2)



八重洲のBrillia Loungeのギャラリースペースに展示されている Roots(根) 宮下ゆり「東京で暮らす人々の衣装を素材として使用、それぞれの衣装に宿る記憶や時間、人生の断片を重ね合わせ、大きな根を制作しました。コピペ」普段見慣れた意表突く素材で製作された作品に敬意を表します。(中央区八重洲1-4-16)



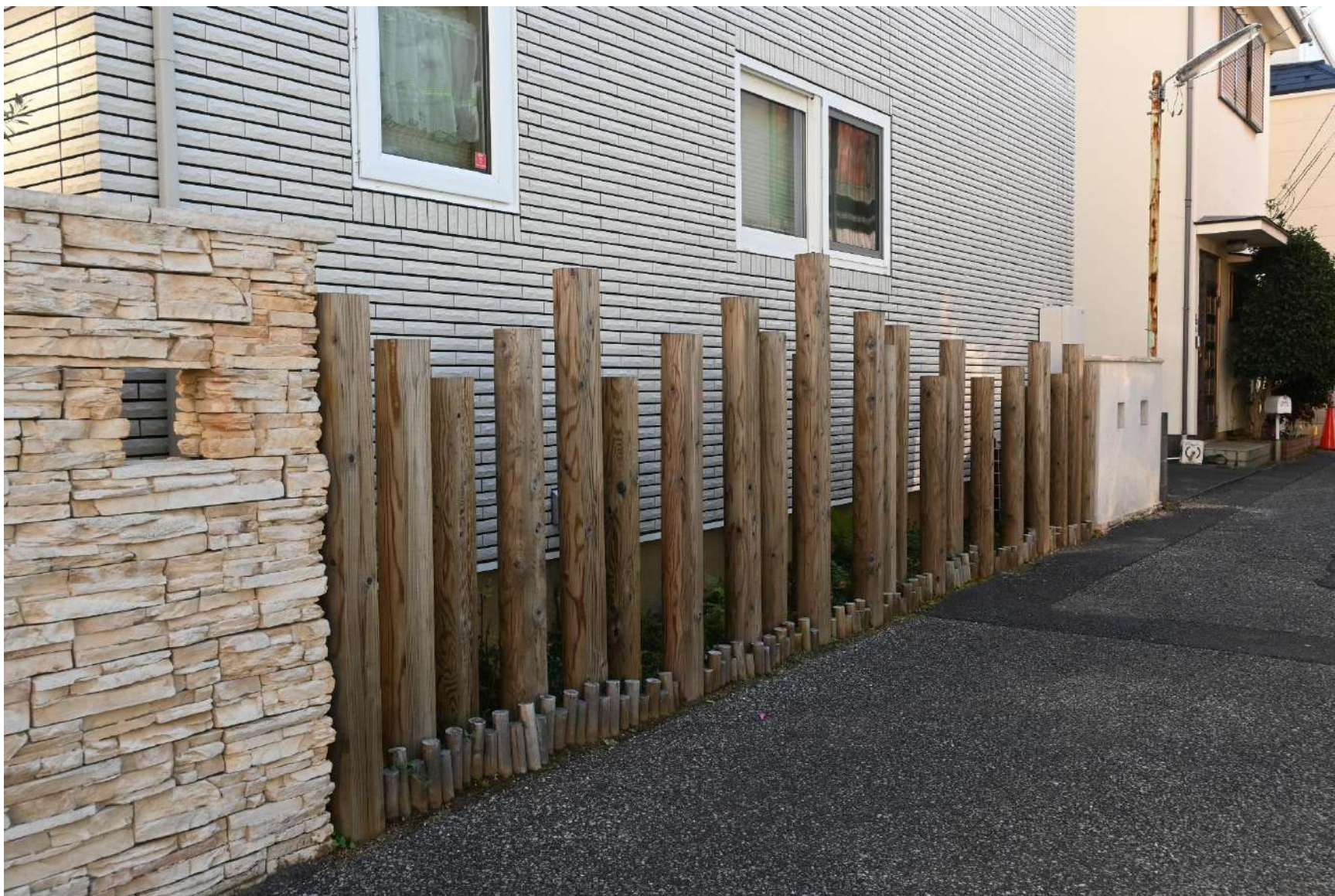
キッチンカーの常設所はこの様に素敵な場所もあるのですね。(中央区日本橋2-2)



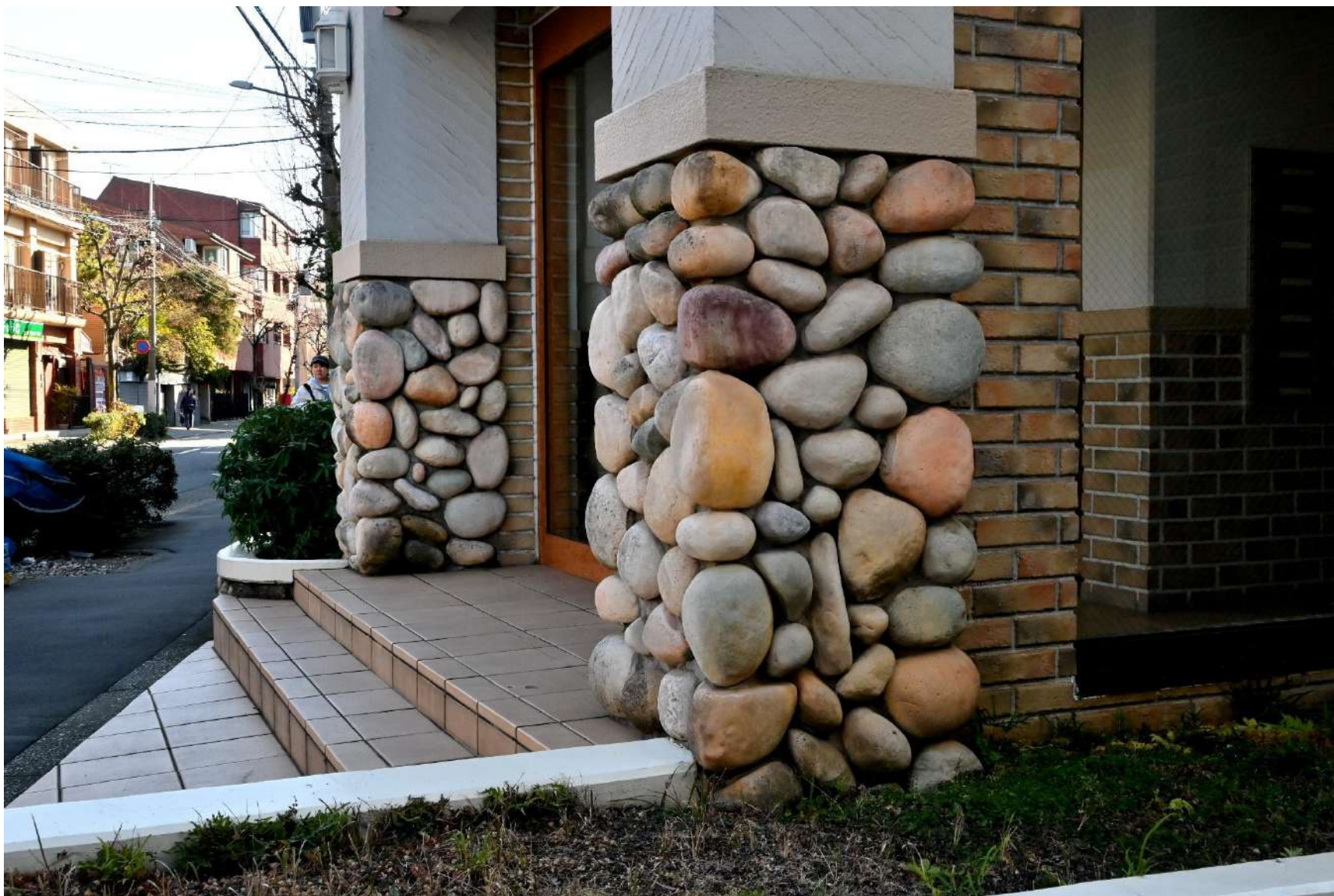
鏡ビルに映るお化け模様のビル群。(東京ミッドタウン八重洲 中央区八重洲2-2-1)



真冬だと言うのに水鉄砲でロボットを狙い盛り上がる、東京ドームシティアトラクション ウォーターキャノン。(文京区後楽1-3-61)



太い棒杭の並ぶ塀。この屋の主はこの様なこだわりのある人のようですね。(北区王子本町2-10-10)



珍しく丸い玉石を積んだ門柱と言おうか入り口の家に出会いました。この屋の主の丸い穏やかで、堅実な人柄が現れた作品のようにも思え、散歩が愉しくなりました。(板橋区南常盤台2-14)



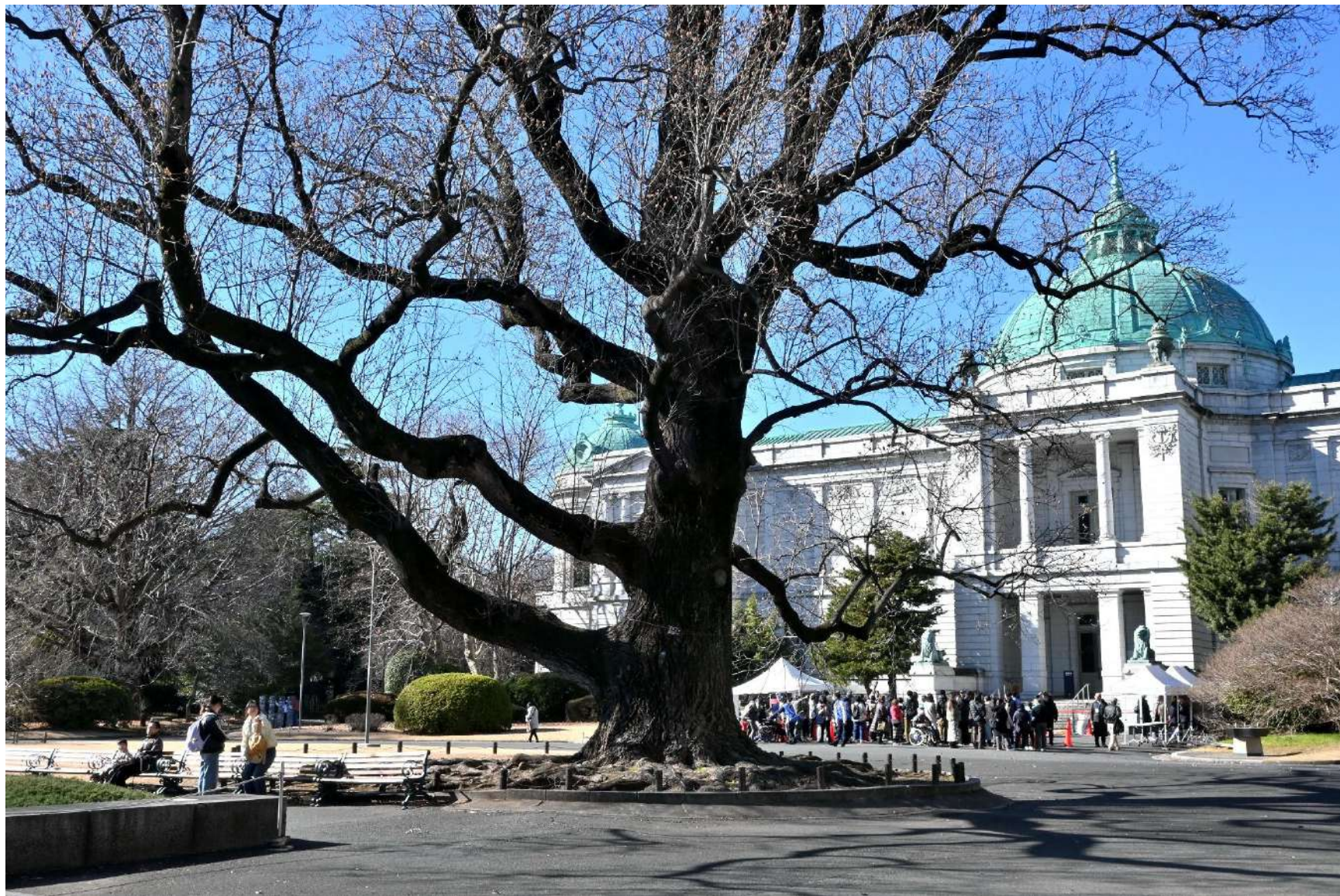
最近窓のない壁だけの家を何軒か見る様になりました。外を観るより見られないことが優先なののでしょうか。（北区西が丘1-4）



私の住む街に、倉庫の様な窓無しの家が建ちました。表札を見ると集合住宅ではなく、個人宅なので世の中替わったとつくづく思いました。(北区西が丘1-17)



中山道一里塚隣の創業133年のケヤキ材を商った斉藤商店が閉店したと知りました。この家を観ると、懐かしさを感じる安らぎの歴史的建造物でしたが、残念歴史の一区切りとなりました。(板橋区小豆沢2-16)



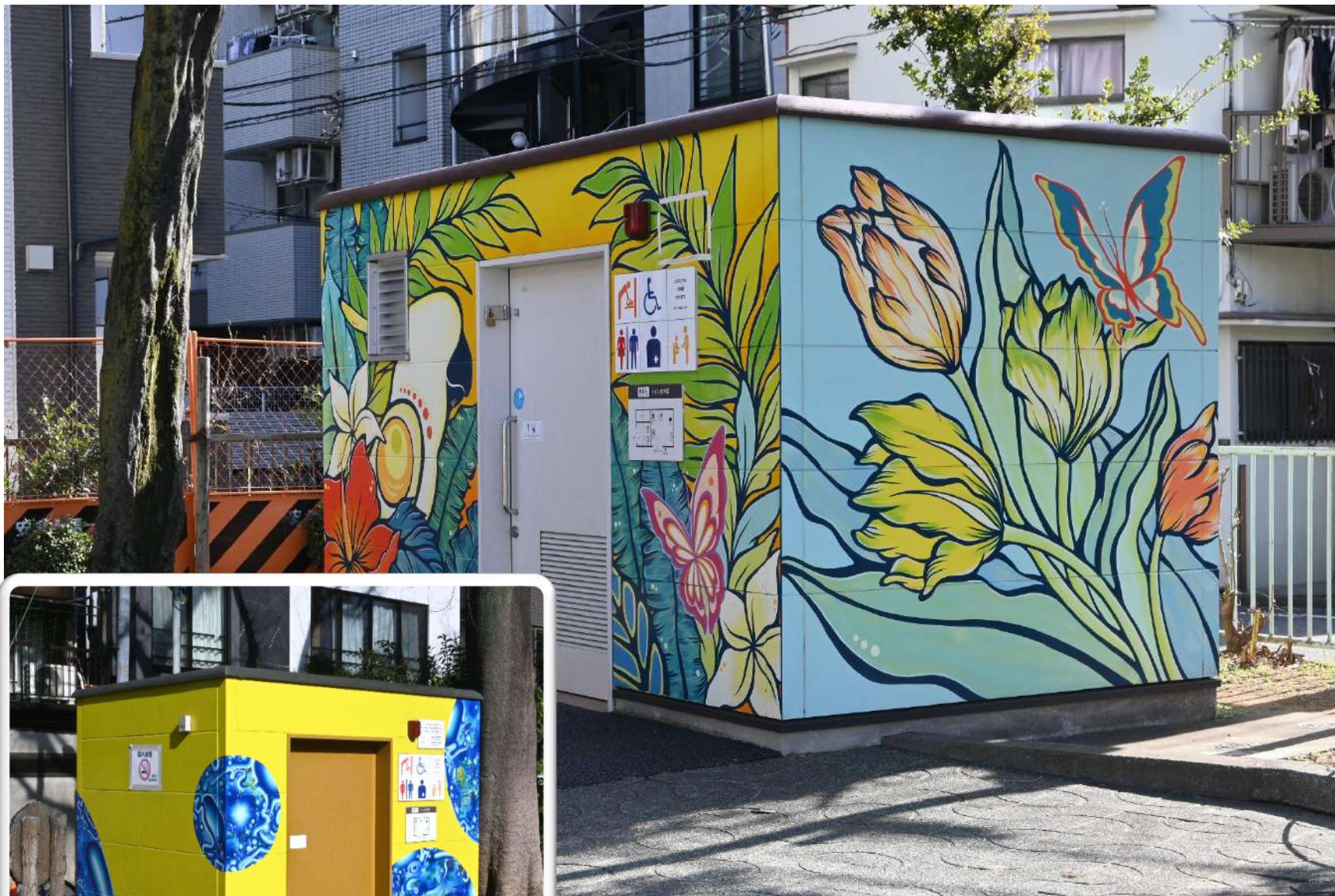
博物館に初詣をしました。黄色く染まって秋の風情が豊かだった表慶館前のユリノキは落葉し、すっかり冬の風情となりました。オヤ！ 表慶館前に人が列を作って混雑をしています、何事でしょう。行ってみましょう。



日本在来馬の「道産子」ゆきと、愛媛県今治市の「野間馬」ミカンが馬の博物館から派遣され、観客と一緒に被写体になったり触れる集まりでした。小さな馬なので子馬かと思いましたが、8種類いる日本在来馬の中で一番小さな種類で、2015.5.26生まで10歳、可愛い働き者だそうです。新年早々生きた歴史に出会え、うれしい記憶になりました



今月の東博は博物館に初もうで-神と人をつなぐ祈りのかたち-馬の展示が多くありました。家畜化されて約500年以上前から現在に至るまで、馬は良きパートナーとして、多方面に置いて欠かせない存在でしたと解説されていました。(厩図屏風 室町時代)



久しぶりに池袋西口を歩き、公園のトイレが綺麗なのに驚きました。
(池袋公園 豊島区池袋4-22-9)



遠くから見ると、何かゲームかなと思い近付くと、最近見かけぬ大きなドラム缶でした。まるで街の句読点の様な刺激を感じ、これはこれで良いものだと思います。(板橋区中丸町11-2)



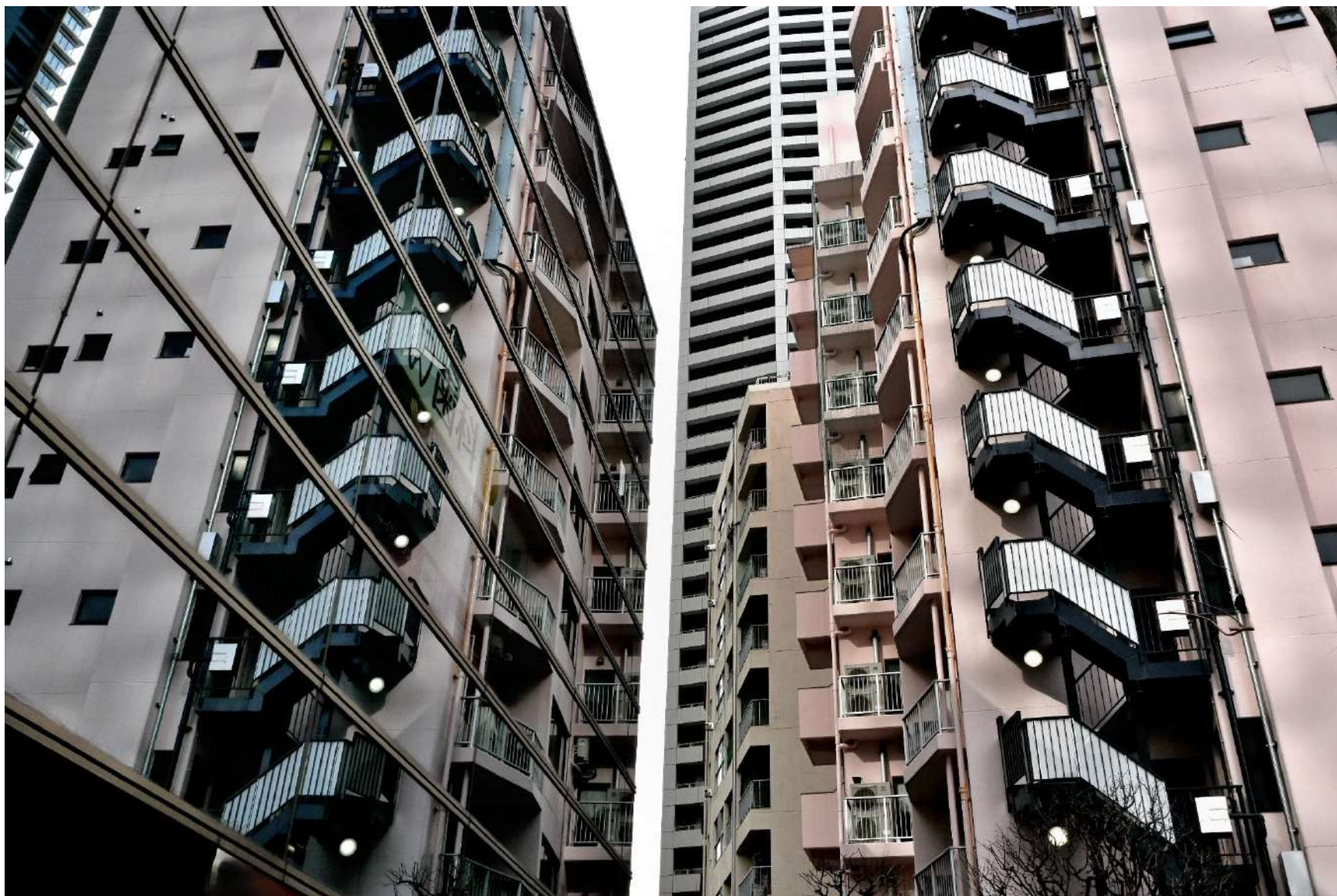
散歩をすると、今まで観た事もない光景に出会います。組み立て前のダンボールが積み上げられて崩れかけています。このような状態を見た経験はないし、これはこれで、妙な危機感もあり、偶然が作り出した造形のようにも見え、興味深くも感じます。まるで無意識の作り出したオブジェともみえました。(板橋区中丸町8-10)



新宿二丁目の藍色酒場 通称愛色カフェ ここでは鳥居の色も派手な虹色と思ってよく見ると、藍色(愛色)の抜けた六色でした。ゲイバーだからでしょうか？或は店自体が藍色だからか調べても判りませんでした。それより、酒場の入り口がなぜ鳥居なのでしょう、謎です。(新宿区新宿2-18-1)



今朝の朝刊に徳川慶喜家墓じまい 上野東照宮が継承へと記事が掲載されていました。墓地内にある井戸。2013.7.3撮影
(台東区谷中7-2 寛永寺墓地内 徳川慶喜墓)



西新宿のアイタウン・プラザのガラスに映るビル(新宿区西新宿6-21-1)



常盤台の天祖神社に現代美術作品が設置されていました。古来この地を流れる石神井川と富士山が描かれ、天祖神社から南西方向線上100kmにある富士山とその先300kmに伊勢神宮があり、冬至の日にこの線上に太陽が沈みますと表示されていました。作品に描かれた理想郷の風景に鑑賞者自身の姿が映り、イメージが広がります。こころのけしき/故郷/板橋 船井美佐（コピペ）（ステンレス）



真ん中のビルになぜローマ数字のⅡ～Ⅸがデザインされて居るのでしょうか？何か理由があるのでしょうか？
(新宿区市谷本木町3)



円を描いた細長いマンション。奥行きも、かなり長い距離細いままでした。(市ヶ谷仲之町2-48)